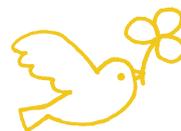


# そのときをすべてを楽しんで生きる

## かわはら とくこ 河原 徳子 さん

朗読文学サークルパティオ主宰 日本文学研究者



徳島市生まれ  
徳島の高校を卒業  
東京の大学へ  
結婚に伴い、三重県へ移住

### 🌟 きっかけとこれまでの道のりは？ 🌟

東京で研究者になるつもりが、夫が地元に戻ることで、三重県へついてきました。子どもが生まれ、しっかりと育てたいと思い、外へは出ず専業主婦をやっていました。

しかし、息子が大学で家を出るときに、「お母さんは何かできる、輝ける女性。もう一回文学をやったらどう？」と言われ、ショックを受けたのが、今につながるきっかけでした。20代から俳句を続け、頭と言葉を錆びつかせないようにしていました。また、芥川賞候補となったおばからも影響を受け続けていたと思います。

いちばん大きなところは、瀬戸内寂聴さんの存在です。徳島の高校の大先輩であり、昔から意識してきた人であり、著作もたくさん読んできました。その寂聴さんを、夫の仕事でお呼びすることがあり、運命を感じました。

### 🌟 やりがいは、どういうところですか？ 🌟

もともと夏目漱石が専門でしたが、源氏物語のファンの方が、私の樋口一葉の朗読を聴いて講師を依頼してきまし

た。源氏物語は文学の中でも大変難しく、「今さらできない」と思いつつ、「やれないのも悔しい」と思って、初めて読書会講師を受けました。たくさんの方に来ていただき、人前で話す感覚をつかみ、自信につながりました。

そこから朗読文学サークル『パティオ』ができました。最初20～30人だったのが、11年目の今では延べ参加者100名ほどになっています。

逃げ続けてきた源氏物語が、今では一番好きになっています。原文で読み通すのは大変ですが、読めると嬉しく、面白みを感じます。作者紫式部が女性であるのは、通じるものを覚えます。私の使命は、女性の目線で読み解くことと思っています。

### 🌟 自分らしさは？ 🌟

三重県内の様々な場所だけでなく、全国の遠いところへ出向くのは大変ですが、待っていてくれる人がいるとの思いで続けています。人に与えられている時間は1日24時間。そのときそのときを楽しむことにしています。笑顔を意識してにこやかに、楽しむ努力が幸せにつながると思います。

夫は私に理解があり、協力的ですが、家事にも手を抜きたい性格で、気分転換としてやっています。

### 🌟 目標は何ですか？ 🌟

鈴鹿には97歳まで頑張ってきた文学評論家の清水先生がいらっしゃいます。この方もずっと意識してきた、特別な存在であり、目指すところです。今、私もたくさんファンの方に囲まれ、好きな文学を語れ、どうにかこうにか達成してきているのかな？と感じているところです。

### 🌟 最後に伝えたいことをどうぞ… 🌟

与えられた命は、できるだけ楽しんでいくこと。自分で自分をインスパイアすること。もちろん、ぼーっとする時間も大切ですが、生きている間、いろんな人と会って、付き合っていて、自分を展開していくこと。そうして最後は「人生楽しかったな～」と終わられるように生きられれば、素敵なことではないでしょうか。自分の思いと、人との交流を大切に、これからも楽しむことを続けていきます。